FROM IROKAWA

色川だより

2007年
8月1日

23

特集
小阪地区

同級会報告
色川の今
- 「色川よろず屋」
- 「百姓養成塾」について
- 「棚田を守ろう会」

色川私考
「俳人 灸（やいと）さん」

那智勝浦町公民館
籠分館／色川分館／妙法分館

小阪／
椙吉神社
絵・西浦完治

目　次

発刊にあたって

特集　/小阪地区

- 小阪の今　西浦　勉　…… 2
- 味の旅に故郷を想う　尾林　静　…… 9
- 讃岐うどんの香川県からこんにちは　向畑　英子　…… 11
- わが故郷・小阪　引地　教雄　…… 14
- なつかしの思い出写真集　宮本　惣次　…… 20
- 私とれいし　西浦　勉　…… 25

小阪の主な行事　27

同級会報告

- 同級会　向井　敏堯　…… 30
- 大切な時間明日からの活力　新宅　徹　…… 32
- 色川国民学校昭和十九年卒業同窓会　宮本　治矩　…… 34

はじめまして

- 水野　佳春　…… 35
- 溝口　亮・もも・真然・心　…… 37
- 堀池　裕希恵・龍司　…… 38
- 多持　真一・あかね・儒生　…… 40

投稿　/美しい山の思い出　山田　博　…… 42

色川のこの一年・・・・　南紀州新聞記事　…… 47

色川の今

- 「色川よろず屋」　大河内　啓子　…… 60
- 「百姓養成塾」について　春原　麻子　…… 62
- 棚田を守ろう会　事務局/吉田　創　…… 68

色川私考　/　俳人　灸さん　松葉　萩生　…… 74

色川の詩歌　…… 78

短歌　/　ふるさと　花井　美代栄　…… 79

色川各地の状況　…… 80

既刊発行「色川だより」のお知らせ　…… 81

収支報告　…… 84

投稿大募集　…… 85

編集後記　…… 86

発刊にあたって

「色川だより　第二十三号」は小阪地区をメインテーマ　やはり原稿の集まりを気にしていたが、わが故郷　小阪の思いは故郷を出て行った人の文を読むと心が打たれる。宮本惣次さんの思い出の写真集　小阪区の主なる行事をも知る事が楽しく読む。私自身亥の子行事を故西浦正春さん宅にて、観、知る事で古い時代を覚えた。

（萩）

小阪の今

西浦勉

若者なき小阪　なにもこれは珍しいことではない。アァ・・・三人おられる。ゴメンなさい、幼児　小中学生、高校生は一人もいない。女性二十七人、男性二十四人、住んでいる人だ。腰が痛い、膝のカブが痛む、耳が遠くなった、そうした方達が多くなったようだ。私もその一人。一日の小阪を見るがよい。田畑で働いている姿をマァ・・見ることは少ない。皆さんはドコでなにを・・・

三年目を迎えた小規模ながら棚田ということか「米づくり体験」に集う人々　一日が賑やかになる。点在している休耕田のボウボウの茅草が、元気な方達（残念ながら小阪の人ではない）によって刈り取られ、見通しがよくなる。「百姓養成塾」私はそんなの知らなかった・・・の五名の塾生の若者さんが小阪の椙吉神社下の休耕地に茅草の大きな株に、敢えて草刈機を使わず、山林下刈り用の鎌で

南泉寺下県道より小阪地区を望む

はじめまして

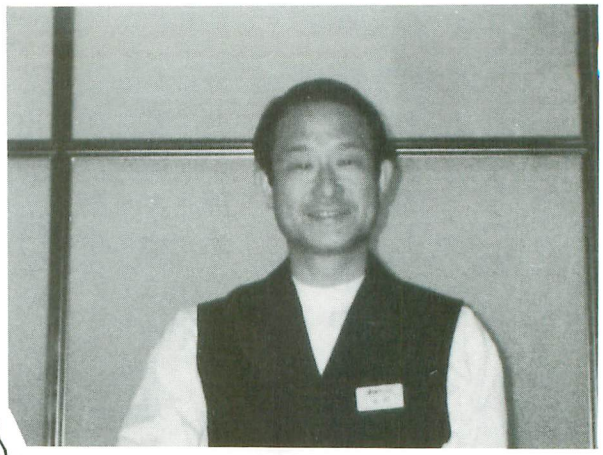
水野佳春

【略歴】

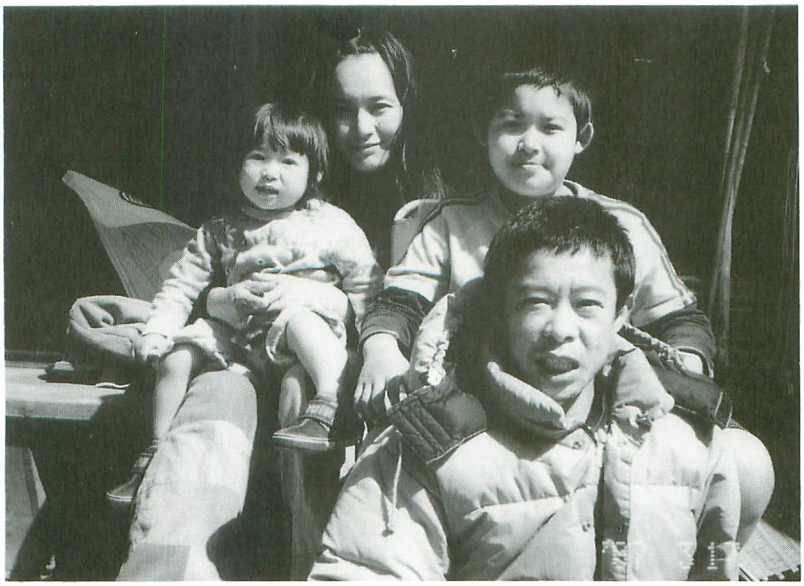
昭和三十一年二月　名古屋市中村区生まれ。高校卒業まで名古屋に育つ。愛知県立旭ヶ丘高校卒業後、長野県松本市の信州大学へ入学。人文学部哲学科卒業。専攻は実存哲学。在学中は、宗教学、深層心理学、精神病理学にも興味を持ち学んだ。大学卒業後、東京へ出る。進学塾で英語の教師をした後、商社（伊藤忠商事の子会社）へ入社。五年後のイラン革命を機にメーカーへ転職しＮＥＣのパソコン部品（マグネティックヘッド）を海外生産（マニラ）する仕事をする。その五年後（株）ドール（ＤＯＬＥ　１００％アメリカ資本）へ転職しフィリピンからバナナ、パイン、アメリカからグレープフルーツ、オレンジ、レモン、オーストラリアからキウイフルーツなどを輸入する仕事をした。平成十七年三月に退社し色川へ移住。

【色川に来てから】

東京での二十五年間に及ぶサラリーマン生活にピリオドを打ち第二の人生を自給自足の生活を目指して色川に来ましたが、一年目から自給自足ができるわけもなく、失業保険が切れてからは新宮や勝浦でアルバイトをして生活しています。現在、昼は越之湯でフロントをしています。夜は小阪の清楚な自宅で禅の研究をしています。趣味は登山とカラオケです。



水野佳春



溝口　亮・もも・真然・心

笠松に入った溝口です。

僕、溝口　亮（りょう）（三十三才）、妻　もも（三十歳）、真然（まさる）（九才）、心（こころ）（二才）そして、もう一人ももの腹の中に居る名もなき胎児の五人家族です。僕は神奈川県相模原市出身、ももは三重県松阪出身、僕らはアメリカのカリフォルニアで出会い、そこで真然が産まれ帰国後、高知県に住み心が産まれ、今、色川の笠松でもう一人産まれようとしています。色川の笠松の家はとても気に入っています。不便ですが、この家に人が入っていないのを「もったいない。」と思い、口色川の平岡さんの好意の元で住まわせてもらっています。

十代の頃、現代社会の矛盾に気が付き、正しいと思うことを立派な社会人に言ったら「そんなこと思うなら山へ行って一人で自給自足の暮らしをして生きていけ！」と怒られました。アメリカでは、正しい事をつらぬいたインディアン達は皆、殺されました。産まれたままの赤ちゃんは美しく、なぜ人間は、そのままの状態で生きていけないのだろうかと、今だに思いますが、死んでしまっては全てが無に帰ってしまいます。なんとか生きて、子供を育て、「自分達はこうあるはずなのではなかろうか！」という夢を捨てずにここでガンバロウと思っています。どうぞよろしくお願いします。

はじめまして

堀池　裕希恵・龍司

昨年、七月末に東京都立川市から引越してきました。立川市には近くに昭和記念公園・横田基地・多摩川・トトロの森があります。東京出身夫婦二人暮らしで、今は口色川の上地さん宅をお借りして、福祉施設に勤め、家庭菜園を楽しんでいます。

はじめまして、といっても実は七年前に農業実習生として、半年位籠ふるさと塾に在ました。

私達が色川を知ったのは、雑誌を通じて、大野在住の岡口さんと出会えたからです。夫はその充実した楽しい生活ぶりを聞き、とてもうらやましがり憧れて、仕事を休み、色川に遊びにいきました。帰ってきた時はますます気にいってしまい、もうすっかり引っ越すつもりになっていました。一度も行ってない私にどんな所か興奮した様子で話してくれて、何といっても住んでいる人達が魅力的だと言っていたのを思い出します。

仕事をやめ晴れて実習生となり、ログハウスを建てたいという無茶な夢を持ち講習に行ったり、移住に向って動いていたのですが、家庭の事情で断念して東京へ戻りました。いつか色川で暮らす事はあきらめずに、ずっと待ち望んでいたので、今とても幸せな日々を過ごしています。おいしい空気にきれいな満天の星、海も山も川も風もすぐ側にある。

我が家のちいさな畑も頂きものの苗でにぎわい、御近所の方から野菜を頂いたり、野菜

作りのコツを教えてもらっているので、すごく感謝しています。自分で作った野菜は不細工でも可愛いくておいしいし、毎日見ていても飽きない。

最後になりましたが、私達が移住するにあたって、力をお借し下さった方々に御礼申し上げます。どれだけ心強く思い、助けられたことか・・・。本当にありがとうございました。

まだ引越して日も浅く解らない事、知らない事だらけなので、いろいろ教えて頂くと思いますが、これからもよろしくお願い致します。ぜひ我が家に遊びにきて下さい。

初めまして

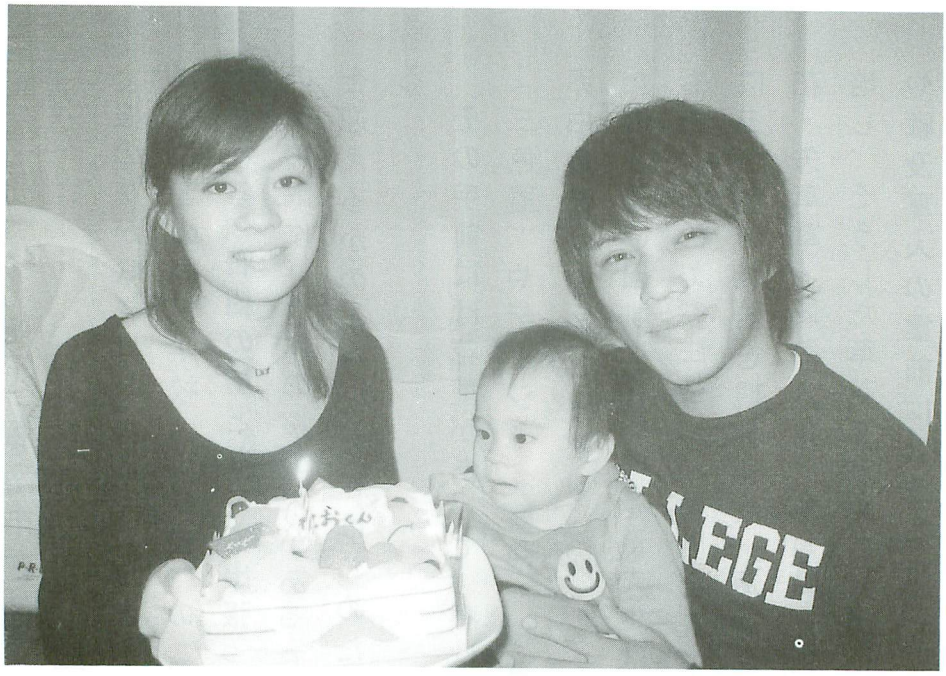
多持　真一・あかね・澪生（れお）

僕たちは今年の一月に大阪から色川に引越して来ました。現在は田垣内に住んでいます。妻のあかねの実家が大野にあるので、以前から何度かこちらに来ていたので戸惑うことなく引越しを決断できました。

決断したきっかけは三つあります。

一つ目は、息子を育てる環境です。息子の澪生（れお）は三月で一歳になります。色川に来た一番の理由としては息子のこれからの環境を考えました。僕は生まれも育ちも大阪でしたが、大阪は日本で一番ダイオキシンが多く空気の汚い町という事や、日本での少年の補導率が日本一ということで子供を育てる環境が決していいとは思いませんでした。その点、色川はのびのびと育てることや自然と触れ合い生活できるのでこの上ない贅沢な環境と思いました。

二つ目は、義父さんの仕事に興味があったからです。義父さんは塩を作っています。大阪で私はパソコンのテレホンオペレーターというコールセンターの仕事を行っていました。特にその仕事をやりたいというわけではなく、生活の為に働いていたという感じでした。でも義父さんの仕事は自分で段取りを組んだり、いろいろ考えながら仕事をしたり、仕事も忙しいということでやりがいがある仕事と思い、義父さんに相談してお手伝いを



させて頂ける事になりました。

三つ目は、田舎の生活に憧れていたからです。大阪に住んでいても買い物に行ったり遊びに行ったりするのに一時間近く時間がかかっていたので特に大阪での生活が便利とは思いませんでした。便利さより環境を優先しました。

こういったきっかけと田垣内で家が見つかったことなどタイミングがあったので決断しました。

色川に来て二ヶ月が過ぎ毎日家族三人で楽しい充実した日々を過ごしています。これから色々助けてもらうこともあるかと思いますが暖かく見守っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

お楽しみ いっぱい

恒例

色川盆おどり大会

去年はこんな感じでした！

やぐらに立った歌い手の音頭に合わせて情緒豊かな盆踊りを楽しむ＝14日夜、那智勝浦町の円満地公園

「地唄」「地踊り」楽しむ

那智勝浦町の円満地公園 色川地区の盆踊り大会

那智勝浦町大野の円満地公園で14日夜、色川盆踊り保存会（松村光隆会長）と色川青年会による色川地区の「盆踊り大会」が催され、地域住民や帰省客など例年よりも多くの人が集まり、夜店や盆踊りを楽しんだ。

色川地区には、初精霊の供養と豊年を兼ねた昔ながらの地踊りがあり、「一つ拍子」「二つ拍子」「三つ拍子」と呼ばれる3種類の踊りを生の音頭と囃子に合わせて踊り分ける独特のもの。音頭取りの新鳥昭さん、松葉二降さん、新宅勝男さん、松村光隆さん、後光さん、畑中幸穏さん、脇本昌吾さんらが朗々と歌い上げる「いろは口説き」など「口説き」という盆踊り歌と「一集」という盆踊り歌と太鼓に合わせて、うちわや手にした踊り手が輪を作り、情緒豊かな盆踊りに興じた。

盆踊り歌は「口説き」「一集」のなかから選んだり、その時折々の出来事を歌に織り込んで即興で作ったりもする。音頭取りがマイクを手にして歌うことで、テープとは違う楽しみがあるという。

色川青年会による夜店ではいきいきとした表情でゲームを満喫する多くの子どもたちの姿が見られた。夜が更けるまで、にぎやかな歓声が周囲の山々にこだましました。

● 今年も皆様のご来場をお待ちしてます!!

8月14日（火） 雨天順延（15日）

円満地公園にて 18:00～

駐車場有ります 無料